



国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所

港湾空港技術研究所

令和6年4月12日

港空研におけるブルーカーボン研究の成果が、我が国が世界初となる海藻藻場における温室効果ガス排出・吸収量（GHG イベントリ）の算定に活用されました

港湾空港技術研究所では、2009年に国連環境計画（UNEP）が「ブルーカーボン」という言葉やコンセプトを作り出す前から、浅海域における炭素循環や大気中 CO₂ の除去機能といった研究テーマに取り組んできました。それらの研究成果には2014年における「海草場が年間を通じて大気中 CO₂ の吸収源であることを世界で初めて示したこと」（<https://www.pari.go.jp/unit/ekanky/research/bluecarbon2/index.html>）や、全球の海藻藻場による大気中 CO₂ の除去量の算定結果を書籍にとりまとめたこと（<https://link.springer.com/book/10.1007/978-981-13-1295-3>）などがあり、港空研におけるブルーカーボンの一連の研究成果では、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第6次評価報告書において数多く引用されております。

さらに港空研では近年、国土交通省からの委託事業により我が国の沿岸域における藻場の分布面積の推計手法を開発するとともに、同省のブルーカーボンに関する検討会において開発状況を報告してきました（https://www.mlit.go.jp/kowan/kowan_tk6_000069.html）。その結果、2022年度の我が国の温室効果ガス排出・吸収量の算定において、港空研で開発された推計手法が活用され、本年4月の国連気候変動枠組条約（UNFCCC）事務局への温室効果ガス排出・吸収量の報告において我が国として初めて藻場による吸収量（合計約35万トン）盛り込まれました。浅海域による吸収量を国連に報告している国はまだ数少ないなか、海藻藻場については日本が世界で初めての報告となります。

海藻藻場による二酸化炭素の吸収量の UNFCCC 事務局への報告に関する詳細については、国土交通省のプレスリリースをご参照ください。

https://www.mlit.go.jp/report/press/port06_hh_000290.html

【内容の問い合わせ先】

（国研）海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所 沿岸環境研究領域 領域長
桑江 朝比呂（くわえ ともしろ）

Tel: 046-844-5046, Fax: 046-844-1274